

平成31年度(令和元年度) 能美市立寺井中学校 学校評価 最終総括

重点目標 (めざす姿)				具体的方策	主 担 当	【評価指標】 〈成果指標〉〈努力指標〉 〈満足度指標〉	【評価の根拠】 達成度判断基準	最終総括	項 目 評 価	総 合 評 価	今後の改善策			
1	組織的な 学校運営	1 ― ①	職員全体が参画意識をもち、共通理解・共通実践に取り組む。	運営委員会	前例踏襲ではなく、教育的効果の視点を持ちつつ、各分掌からの提案がシンプルかつ具体的に継続的に実践に生かされている。	職員アンケート『目的・目標を意識し、前例踏襲にならないよう見直しを進めている。』 a: そう思う b: どちらかといえばそう思う c: どちらかといえばそう思わない d: そう思わない	職員アンケート『各分掌からの提案がシンプルかつ具体的で、継続的に共通実践されている。』	アンケートの結果は、肯定的な回答が95. 5%であり、目的・目標を意識した見直し、改善は進んでいる。しかし、提案段階でまだ前例踏襲のものもあり、PDCAのCAがうまく機能していない。また、主担当にまかせきりという部分も見られ、参画意識をさらに高める手立ても必要である。	A	A	・今後も目的に照らし合わせ、必要かつ効果的、効率的な教育課程の編成に努める。			
						A								
		1 ― ②	多忙化改善の取組を推進し、生徒と向き合う時間の質を高める。	運営委員会	業務分担や時間管理を工夫し、授業の準備や部活動の指導がある程度余裕をもって進められている。	職員アンケート『業務分担し組織的に、能率的、効率的に業務に取り組めるよう努めている。』	職員アンケート『見通し持ち計画的に業務に取り組む等、時間管理を工夫している。』	アンケートの結果は、肯定的な回答が76. 3%であった。昨年度に比べ、一人一人が時間管理の工夫、必要性を強く感じ、取り組んでいる様子が伺える。能率的、効率的ということに関しては、業務の分担がうまくいかず、偏りが見られ、まだまだ改善途中と言える。半数の職員が多忙感を感じており、来年度のCSの中学校への導入に向け、地域の協力、連携をはかる業務等を考えていくことが必要である。	A	B	・行事等の見直しは難しいが、内容のスリム化や時期の検討等にあらゆる可能性を模索する必要がある。分掌組織を見直し、人材育成の視点からも業務の平準化に取り組む必要がある。			
						職員アンケート『多忙化改善に取り組んだ結果、授業や学級、学年経営の準備、また生徒との向き合う時間ができた。』		D						
2	学力向上	授業改善の視点	学習や諸活動の最初にゴールや見通しを示し、最後に振り返る活動を入れる。	研究部	授業では単元や、一コマの授業のゴールの姿を示し、見通しを持たせている。また、様々な行事においても、同様に取り組ませている。	生徒アンケート『単元のはじまりに、到達目標、学習の見通しが示されている。』	生徒アンケート『授業の最初に課題、到達目標(授業ではB評価)、学習の見通しが示されている』	アンケートの結果は、a＋bが93.6%で、中間総括より＋1.3%であった。この結果からも、本校における「授業改善の3つのポイント」を教員が意識して授業を行い、浸透していると考える。今後も引き続き意識を高め、「主体的・対話的で深い学びの実現」にむけた授業改善を推進していく。	A	A	・何を学ぶか、どのように学ぶか、また、何ができるようになるのか等、学習の見通しを持ち目指す姿を教師と生徒が共有できるよう単元マップを活用したい。			
						生徒アンケート『学校行事のねらいを意識して主体的に取り組んでいる。』			A					
						生徒アンケート『授業のまとめや振り返りの場面が設定されている。』	生徒アンケート『50字から80字程度の振り返りの文章が書ける。』		A			B	・授業において振り返りの活動は大切であり、学んだことをまとめて価値づけることや、学び方について自分の言葉で振り返れるようにしたい。教科の特性もあり書き方は検討していきたい。	
						生徒アンケート『授業のまとめや振り返りの場面が設定されている。』	生徒アンケート『50字から80字程度の振り返りの文章が書ける。』	C						
						授業において「思考を広げ深める」対話的な学びの活動を取り入れる。	研究部	授業では単元計画を作成し、知識を活用し、生徒が主体的に活動する時間を位置づけている。	職員アンケート『単元の計画の中に、知識を活用する時間が位置づけられている。』	生徒アンケート『授業では、新たな考え方に会おう等、自らの考えを広げ、深めたりする場面が設定されている。』	アンケートの結果は、a＋bが90%で、中間総括と同等であった。後期も授業の中で、知識を活用したり、自分の考えを広めたり深めたりする場面が全体的に設定され、ペアやグループワークも積極的に取り入れられていた結果と考えられる。今後はさらに効果的な学習活動や学習形態を研究し、その場面設定なども考え、生徒1人ひとりが活躍できる場を増やしていきたい。			A
									生徒アンケート『授業ではペアやグループワーク等が設定されている。』	生徒アンケート『授業では活躍できる場面がある』		A		
			生徒アンケート『授業では活躍できる場面がある』		B									
			職員アンケート『説明の場面(発表や文章)では、根拠を示しながら理由を述べるよう指導した。』	職員アンケート『課題の解決に向け、生徒の言葉を意識しながら授業をコーディネートするよう努めた。』	生徒アンケート『発表や話し合いの場面では、積極的に参加している。』				アンケートの結果は、a＋bが86.3%で、中間総括と同等であった。結果からも、思考を広げる「対話的な学び」を意識して、授業が展開されていることがうかがえる。今後はさらに見取りを生かした指導(意図的指名や全体交流でのコーディネート等)を研究していく必要がある。	B	A	・深める場面では、教師のコーディネート力が大きな課題である。他校の授業視察の機会を持つなど、具体的なイメージが持てる機会を充実したい。		
						A								
						B								
			単元でつけたい力を明確にし、形成的評価(学習)計画を共有するとともに、単元末の評価を計画的に実施する。	研究部	教科部会で指導と評価の計画について確認し生徒に伝えるところと、活用力の評価について工夫している。	職員アンケート『単元の指導と評価の計画を作成し、教科担当間で確認している。』	職員アンケート『単元テストの計画を生徒に伝え、計画的に実施している。』	アンケートの結果は、a＋bが75.6%で、中間総括より－2.4%であった。今後は今以上に教科部会(学年教科打ち合わせ)を定期的開催し、単元計画作成やテスト作成に見通しをもって取り組むことが必要である。また授業では、定期テストを意識した授業づくりを実践できるようにしていく。	C	B	・次年度は教科部会を週時程内に位置づけ、単元テストの実施を含めた単元計画の作成を進めたい。(単元マップでの共有)			
						職員アンケート『定期テスト等で活用力を評価する工夫を行っている。』			D					
									A					
			2 ― ③	家庭学習と授業のつながりを模索しながら、生徒の学習習慣が確立するよう取り組む。	研究部	学習習慣の確立に向けた指導が十分なされいる。	生徒アンケート『学校の授業以外に月～金曜日に1日どれくらい勉強しますか。』 a: まったくしない b: 30分未満 c: 30分以上1時間未満 d: 1時間以上2時間未満 e: 2時間以上3時間未満 f: 3時間以上	職員アンケート『予習や復習を意識し、授業に生かされる宿題を指示している。』	アンケートの結果、1時間以上の割合が61%で中間総括と同じであった。1、2年を中心に、定期テストが関係しない月の学習時間が少なく、家庭学習が課題(週課題など)だけになっている生徒が多い。今後も家庭学習の充実(学習習慣の確立)に向け、週課題や家庭学習の取り組み方(予習・復習)についてなど、各学年研究部員と連携して進めていく。		B	・学習への目的意識を持たせるため、十年後の自分から逆算して、今何が必要なのかを考える機会を設けるなど、キャリア教育を充実させたい。		
							職員アンケート『予習や復習を意識し、授業に生かされる宿題を指示している。』		B	B			・ネットに関わる課題があり、引き続きSNSやネットゲーム依存についての危険性を考える機会を持ちたい。	
							教務部	放課後や長期休業中の補充学習にも積極的に努めている。	職員アンケート『補充学習に積極的に努めている。』			アンケートの結果は、a＋bが84%で、中間総括と同じであった。課題については、復習や週課題だけではなく、予習が必要となる授業づくりを意識していく必要がある。補充学習に関しては、行っているものの、効果的とは言い切れない。時間確保も含め、内容、やり方を学校全体で考えていかなければならない。		A
3	心の教育の推進	3 ― ①②	学習規律等の指導を通して、実社会で必要とされる態度やマナーを身に付けさせる。	生徒研究部会	チャイムと同時に授業の開始終了がなされ、気持ちの良い挨拶とともに規律ある雰囲気での授業が行われている。	生徒アンケート『次の授業の教具をそろえ、不必要なものは机の上に置かないようにしている。』	生徒アンケート『チャイムが鳴る前に席に着いている。』	アンケートの結果は、a＋bが88%で、中間総括と同等であった。ただ、中間総括と同様に、「私語を慎む」については、他と比較し低いため、今後も「授業を高める7か条」については、生徒・教員ともに意識を高めていきたい。また学年委員会による啓発活動も継続して行っていく。	A	A	・教師の指導ではなく、生徒が必要性感じ、自然体でそのような姿が現れるよう、学習規律の確立を進めていきたい。			
						生徒アンケート『号令と授業のあいさつはしっかり行っている。』			A					
						生徒アンケート『授業では私語を慎んでいる。』			A					
									B					
			これまでの道徳教育の実践研究の蓄積とその成果を共有化していく。	道徳部	すべての職員が、道徳教育年間指導計画に沿って道徳の授業を実施している。	職員(学級担任)アンケート『ねらいを明確にし、生徒が考え合う授業づくりを行っている。』	生徒アンケート『道徳の授業は好きである。』	担任がねらいを意識しながら授業を実践することができた。また道徳の授業に対して肯定的に捉えている生徒が増えており、意欲的に取り組んでいることが分かる。一方で教科書の教材の中にはやりづらいものがあるという声もあり、年間指導計画を見直す必要がある。	A	A	・熱心に道徳の授業に取り組む教師と生徒の姿がある。道徳の授業づくりを教科指導にも生かしていきたい。			
						生徒アンケート『道徳の授業は好きである。』			B					

